

令和6年度第2回倉敷市国民健康保険運営協議会議事概要

1 日 時 令和7年1月16日（木）午後2時～午後3時

2 場 所 倉敷市役所3階議会特別委員会室

3 出 席 者

【委 員】磯崎委員、井上委員、齋藤委員、中間委員、星島委員、
岡委員、近藤委員、柚木委員、長尾委員、三浦委員、
竹中委員、田辺委員、藤原委員、三村委員、宮崎委員
森本委員、田房委員、徳永委員

【事務局】生水副市長、早川参事、友杉副参事、則本課長代理、山脇課長主幹、
綱島主幹、山根主幹、中西主幹、古嶋主幹、長谷川副主任、渡邊主事、宗重主事

4 議事

- (1) 本市国民健康保険の状況
- (2) 令和7年度国民健康保険特別会計の概要（当初予算要求時）
- (3) 本市国民健康保険事業における取組状況
- (4) 国民健康保険に関する制度改正及び国・県の動向
- (5) 令和7年度保険料率及び国民健康保険条例の一部改正（案）

5 議事の経過

- 事務局より、国民健康保険の状況と取組、令和7年度当初予算案の概要、令和7年度保険料率案及び制度改正の説明を行い、質疑応答の後、令和7年度国民健康保険料及び倉敷市国民健康保険条例の一部改正に係る諮問案が了承された。

（以下、主な意見等）

- 委 員：基金を取り崩すことにより保険料率を据え置くことについては特に異存はないが、資料には令和8年度以降に関する記載がない。保険料率の引き上げについて、基金が枯渇するのを待って検討するのか、少し前段階で検討するのか、一体どのタイミングで議論していこうと考えているのか教えてほしい。
- 事務局：被保険者の急激な負担増とならないために、基金が枯渇する前に保険料率の改定を考えていくことの必要性については十分認識している。現在の基金残高では、令和8年度以降に、令和5年度から令和7年度と同様のペースで取り崩していくことは困難な状況である。今後、令和6年度の決算状況や、制度改正の影響等を見極めながら保険料率の改定を検討していく必要があると考えている。

○委員：倉敷市国保の一人当たり保険料の水準は、他市と比べてどうか。

→事務局：岡山県内の27市町村の中では、一定の条件の下に比較すると、安い方から15番目であり、中間に位置している。

○委員：国保特定健診について、ポスターの掲示などで協力してきたので、受診率が30%を超えたことをうれしく思う。

骨粗しょう症に係る骨密度の検査について、骨折する前に気軽に受けられると良いが、医療機関で受けると料金が高い。何年かに一度でも結構なので、補助をお願いしたい。

→事務局：愛育委員の皆様には、健診ポスターの掲示や特定健診の啓発で大変お世話になっており、今回の受診率向上も皆様の御協力のおかげと考えている。

骨粗しょう症については、特に女性は高齢になればなるほど骨密度が下がって骨折しやすくなり、骨折すると寝たきりの原因にもなってしまうため、重大な問題だと認識している。骨粗しょう症の健診については、国保だけではなく市全体の健診として検討できるかどうかを関係課と相談してまいりたい。

○委員：国保の保険料について、国の方針としては「完全統一（都道府県のどの市町村でも同じ所得水準、同じ世帯構成であれば同じ保険料とする。）」ということで、それに向けて、岡山県が段階的に全市町村の同意を取っていくということか。

→事務局：国の方針は、まず、令和12年度までに医療費水準を考慮しない「納付金ベースの統一（各市町村の納付金に各市町村の医療費水準を反映させない。）」、その後、令和18年度までに県内での「完全統一」を目指すというもので、それに向けて県内で検討を重ねているところである。

○委員：診療情報提供事業について、診療情報を提供してくださる方は、すでに医療機関にかかられている。診療情報の提供は、特定健診の受診率向上には寄与していると思うが、保険者として、その方の健康づくりのために健診データをどのように活用しているのか。

→事務局：すでに医療機関にかかられている方のデータであるため、特定保健指導の対象者を見つけ出すというものではない。提供していただいたデータは、腎機能の数値eGFRが正常値よりも低い方に対する慢性腎臓病啓発事業として、治療の継続や生活習慣病の重症化予防の啓発に活用させていただいている。

（以上）